

# 関西大学経済学部・商学部創設一〇〇年記念展示について

## 関西大学年史編纂室

はじめに

明治三十七（一九〇四）年、関西法律学校の本科に経済学部の前身である経済学科が誕生している。以来、経済学部は発展・拡充し今年で百年を迎える。商学部の前身である商業学科の創設は、それより二年後の明治三十九（一九〇六）年であるが、両学部のこれまでの変遷を考え、経済・商両学部併せて展示することとした。

なお、展示ケースが六点ということから、百年にわたる歴史と伝統を六つのテーマに分け、「時代とひと」に焦点をあてた。以下、ケースごとに説明する。

### 一 関西法律学校の創立と経済学科・商業学科の設立

#### 1 最初の経済学講義

関西大学の前身である関西法律学校―関西で最初の法律学校―は、明治十九（一八八六）年十一月四日、大阪西区京町堀の願宗寺で開校している。「関西法律学校設立の主旨」によれば、法学及び経済学は、「国民たるの本分を尽し、社会に生活を遂ぐる所以の道を講習する方法にして何人と雖も講修せざる可らざるもの」であると論じている。つぎに、東京と大阪の関係をフランスのパリとリヨンに比して、商事工業取引の關係が繁多

な我大阪の地において、大阪控訴院及び始審裁判所に勤める判事や検事を招聘して、「汎く内外の法律及経済学等の教授を乞ひ」、一大専修学校を設立する、と述べている<sup>1)</sup>。当初から経済学は、法律学と並んで重要な学科(科目)として位置づけられていたのである。

関西法律学校における最初の講義は、校主吉田一士の経済学講義であった。なお、本校の教科と開校日を報じた新聞記事(「朝日新聞」十月二十二日)によれば、「経済論」は、創立者の一人である志方鍛(一八五七—一九三二)が担当することになっていた(ちなみに本学の創立者は十二人で、吉田や志方、つぎに述べる手塚や野村も創立者である)。

## 2 手塚太郎と野村珍吉の経済学講義

『経済叢話』(毎月二回発行)には、同校生津原武(一八六八—一九六五)が筆記した手塚太郎(一八六一—一九三二)と野村珍吉(一八五五—一九九六)の「経済学講義」が連載されている。

杉原四郎・本学名誉教授によれば、「手塚の講義が司



手塚太郎



野村珍吉

法省法学校の伝統であるボアソナード、アッペール系のフランス経済学に基づくものであるのに対し、野村のそれは、当時わが国で経済学の教科書として最もよくまわっていたフォーセット夫人の『経済学入門』(Fawcett, M. G., *Political economy for beginners*, 1870) によりながら講義されていた<sup>2)</sup>とのことである。また、当時の明治政府が従来のイギリスやフランスにかわってドイツを模範とする路線を採用する中であって、「一八八六年における関西法律学校の経済学がなお自由主義的であったことは、注目しておいてよいだろう」と指摘されている<sup>3)</sup>。写真は、同校生小岸安昌が筆記した法学士野村珍吉君述「経済学第一巻」である<sup>4)</sup>。

明治二十一(一八八八)年、本校は文部省令第三号「特別認可学校規則」に則って学則を整備し、文部大臣森

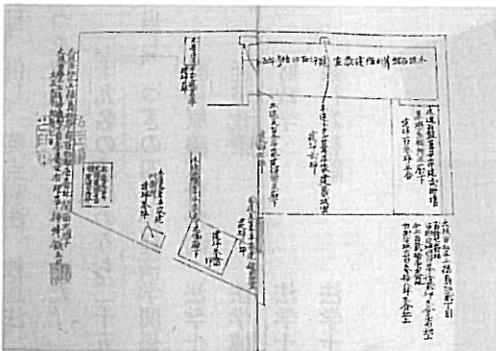


経済学一巻

有礼宛に特別認可申請  
 手続きを行ってている。  
 このとき定められた学  
 科課程において、法律  
 科目と並んで、各学年  
 とも理財学が置かれて  
 いる。理財学は野村鈇  
 吉が担当した<sup>(5)</sup>。ただし、  
 このとき特別認可は認  
 められていない。認可  
 されれば、卒業生は高等文官試験の受験資格を得、徴兵  
 令上の特典（在校生は二十六歳まで徴集猶予）をうけるこ  
 とになっていた。なお、本校は明治二十六（一八九三）  
 年に司法省指定学校の認可を受けている（本校卒業生は、  
 判事検事登用試験を受ける資格を有することになった）。

### 3 経済学科・商業学科の設立

明治三十三年（一九〇〇）年、本校は社団法人の設立認  
 可を得、翌年、名称を「私立関西法律学校」と変更して



福島学舎土地建物権利登記済書

いる。明治三十六（一九〇三）年十一月、江戸堀に新校  
 舎が落成し、翌年一月、専門学校令による学校として認  
 可をうけた。六月の社員総会で念願の経済学科新設の件  
 が可決され、八月五日付で文部省の認可をうけている。  
 明治三十八（一九〇五）年、「私立関西大学」と改称  
 し、学則を変更する。翌年六月の臨時社員総会におい  
 て、商業学科設置の件が可決され、十月二十日より天王

寺美術館仮校舎に  
 おいて開講した。

明治三十八（一  
 九〇五）年十月、  
 江戸堀校舎の敷地  
 について、大阪市  
 から市街電気鉄道  
 を敷設するため公  
 用接収の通知を受  
 け、大阪市北区上  
 福島に新学舎を建  
 築することになっ

ていた。新学舎が竣成するまでの約四ヵ月間、天王寺公園内に仮校舎が置かれていたのである。福島学舎は、明治三十九（一九〇六）年十二月に完成している。

## 二 経済学科・商業学科の授業

### 1 経済学科の講義科目

当時、本学には専任の教員は存在せず、授業を担当したのは外部から招いた講師たちであった。開校以来、明治二十年代までは、在阪の司法官によって講義が行われていたが、明治三十（一八九七）年に京都大学が設立され、明治三十二（一八九九）年に従来の理工科大学に加えて法科大学が創設されると、京大から講師を迎えることができるようになった。

「関西大学学制一覧」（明治三十八年）によると、経済学科の設置科目はつぎのとおりである。

憲法、行政法、民法、商法、刑法、国際公法、経済原論、金融論、貨幣論、為替論、外国貿易論、経済政策、財政学、統計学、英吉利法、独逸法、仏蘭西法の十七科

目。但し、英吉利法、独逸法、仏蘭西法は何れかその一つを選択することができた。

二十九名の講師のうち二十五名が法律関係の科目を担当し、つぎの四名が経済学関係の科目を担当している。<sup>(5)</sup>

経済原論、貨幣論	法学士	伊香賀矢六
経済政策	法学博士	田島 錦治
財政学	法学士	財部 静治
銀行為替論	法学士	田代 循



財政学講義筆記ノートほか

## 2 河上肇の授業

写真は、河上肇講師（京都帝国大学法科大学助教）の英文経済学の授業風景である。

彼の講義をうけていた学生（吉長正好）と河上肇との往復書簡からは、当時の学生の学問に対する情熱と、河上の誠実な人柄をうかがい知ることができる。



河上肇の授業風景

吉長正好は、河

上肇講師に宛てた書簡で、経済学上

の価値について質問している。

河上講師から吉

長宛の返書はつきりとおりである。

「拝復 御書

面頂戴の当時

ハ、各学校の

試験答案の調

査ルて多忙を極め居り候為、直ち尔ご返事致すことを不得、失礼致候、今日延引ながら略答申上候

御尋の儀ハ貴兄の如く御解釈致され候て差支無御座

候事かと存候、併し貨幣の価値を研究すといふは、

實ハ一般価値を研究する尔て、而して一般価値ハ即

ち一般の財の価値を貨幣尔て秤量したる場合尔起る

現象ゆへ、詮じつむれば、経済学尔てハ貨幣尔て秤

量したる場合の価値のことしか直接の研究題目とは

せざる様かと存候、乍延引貴答まで、如此御座候

匆々不一

七月二十八日

河上肇

吉長正好様侍史

すなわち、返事が遅れたことを詫びたうえで、経済学

上は貨幣にて秤量した場合の価値のことしか研究題目と

はしない、と分かり易く答えている。

### 三 第二次世界大戦と関西大学

昭和十六（一九四一）年十二月八日、太平洋戦争開戦



学生に訓示する神戸正雄学長

当時、徴兵猶予が認められていた学生たちを早く卒業させ、徴兵することが目的の修業年限短縮措置であったが、戦争が激化した昭和十八（一九四三）年には、一般学生の徴兵猶予すら停止された。これにより、徴兵猶予を受けていた本学の学生たちも、昭和十八年十二月一日に入隊することになったのである。

展示品の「学徒出陣別れの遺墨集」は、八島治一教授の受講生によって書かれたものである。「戦地に赴く兵士への恩師の寄せ書き」、「神戸学長から戦地の校友への

の日、神戸正雄学長は、千里山学舎のグラウンド（旧第一グラウンド）で学生たちに訓示した。

この日は卒業試験の第一日でもあった。戦争の激化で大学の修業年限は、昭和十六年度から三ヵ月、十七年度からは六ヵ月短縮された。

葉書」及び「正井敬次教授経済原論演習宿題控」は苗村七郎氏より提供をうけた。

本学から戦地の校友宛に「学報」を送付していたこともあって、年史編纂室には戦地から本学に宛てて送られたお礼状（絵葉書）など―検閲済の軍事郵便―が多量に保存されている。戦地での校友の心情や近況が綴られており、いずれも貴重な記録である。

昭和十九（一九四四）年、教職員の整理が決定され、全員が辞表を提出した。矢口孝次郎教授の辞職願は、そのときのものである。

#### 「 辞職願

私儀

今般都合ニ依り辞職仕り度、此段御願申上候

昭和十九年 月 日

職名 教授

氏名印 矢口孝次郎

財団法人 関西大学 御中

なお、つぎの同年二月二十八日付文書によれば、辞職願は学長・理事より矢口教授に返されたことが分かる。

「拝啓 過日辞表御提出相願候処、一先返戻候間、御  
入手相成度候

尚十九年度の御担当学科並に時間数其他に付いて  
は、更めて御相談申度候得共、何れ御負担は若干加  
重と相成候事と御了承願度、予め得貴意申候  
右要用迄

昭和十九年二月二十八日

財団法人 関西大学

学長 神戸正雄

理事 吉田音松

矢口孝次郎殿

矢口教授は慰留されたが、このとき、およそ半数の教  
員が大学を去った。

#### 四 経済学部・商学部の発展を支えた人たち

昭和九（一九三四）年、各教授の所属する学部が定め  
られ、学部長選挙が実施された。英国に留学し、商業英  
語や経済英語を担当した水谷揆一教授（一八八五—一九七

六）が、初代の経済学部長に任命された。なお、水谷教  
授は、サッカー部の初代部長も務めた。

翌年、経済学部は経商学部と改称され、正井敬次教授  
（一八八三—一九七九）が経商学部長となった。正井教授は、  
貨幣論や外国為替論を担当した。昭和二十一（一九四六）  
年に初めて行われた学長選挙で、学長に選出されている。

磯部喜一教授（一九〇二—一九八七）は、経済政策や工  
業経済学を担当し、経済学会の前身である千里山経済学  
会の創設に関わった。昭和十七（一九四二）年、経商学  
部長に就任している。

昭和二十三（一九四八）年、新制大学の設置が認可さ  
れ、法学部、文学部、経済学部、商学部（いずれも第1  
部、第2部）が発足した。

森川太郎教授（一九〇二—一九七四）は、金融論を担当  
した。昭和二十一（一九四六）年、経済学部長となり、  
昭和四十（一九六五）年学長に就任している。

矢口孝次郎教授（一九〇三—一九七八）は、経済史、英  
国経済史を担当した。昭和二十二（一九四七）、二十三  
（一九四八）、三十三（一九五八）年の三度、経済学部長

となり、昭和三十四（一九五九）年に学長となった。

今西庄次郎教授（一九〇一―一九八二）は、経済政策、証券市場論を担当し、昭和二十三（一九四八）年、初代商学部長となった。

板橋菊松教授（一八八八―一九八三）は、社債信託論を担当し、昭和二十八（一九五三）年に商学部長となり、昭和三十一年（一九五六）年、東京連絡本部長を務めた。

植野郁太教授（一九一九―二〇〇二）は、会计学、財務諸表論を担当した。昭和三十五（一九六〇）年、商学部長となった。また、公認会計士試験委員も務め、野球部の部長でもあった。

## 五 新制大学の発足と学生生活

本学で正規に女子の入学が認められたのは戦後になってからである。昭和二十（一九四五）年十二月、女子教育刷新要綱が閣議で了承され、大学における男女共学の実施が決定されると、本学も直ちに女子に対して門戸を開放し、翌年、初めて女子学生が一名入学した。昭和三

十（一九五五）年に、全学生のわずか一パーセント強に過ぎなかった女子学生が急増したのは、昭和四十年代後半の大学紛争以降である。

公認会計士試験のために勉強する経済学部・商学部の学生は多いが、その公認会計士法は、昭和二十三（一九四八）年に制定され、翌年最初の試験が実施された。

当時の試験制度は、実務経験が十年以上ある人のための特別試験と、第一次試験から第三次試験まで受験しなければならぬ普通試験の二つに分かれていた。そのときの二次試験の合格者は、全国で七十名、本学からは一名、末政芳信（現在、本学名誉教授）が合格している。一方、クラブ活動では、昭和四（一九二九）年に創部された経済研究部が



経済研究部

七十有余年の歴史を持ち、理論、歴史、政策などの研究部門に分かれて活動している。さらにこの研究部は、昭和三十六（一九六一）年に結成された関西大学経済学部ゼミナル協議会の母体ともなった。

## 六 経済学部・商学部を彩る人々

関西大学を卒業し、各界で活躍している校友は多い。今回の展示では、特に芸術・スポーツの分野でユニークな活躍をした経済学部・商学部の学生並びに卒業生をとりあげた。

大正時代、学生相撲で活躍した竹田繁七選手（一九〇二―一九七九）。鳥海青児（正夫）画伯（一九〇二―一九七二）。戦後アメリカン・フットボールで本学の大学日本一に貢献した羽間平安選手（一九二七）。

学生時代野球部で活躍し、卒業後プロの世界に入り、数々の記録を残した村山実選手（一九三二―一九九八）。落語家の桂三枝（本名・河村静也氏、一九四三）。

フィギュアスケートでオリンピックピックやユニバーシアード、全国フィギュア

選手権大会などで好成績を挙げた佐藤信夫選手（一九四二）と大川久美子選手（一九四六）。

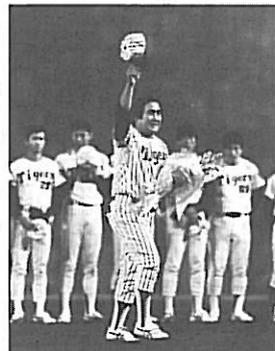
また、両学部の学生ではないが、平成

十（一九九八）年甲子園春夏連続出場を果たし、春は準優勝、夏はベスト八入りの快挙を遂げた関西大学第一高等学校野球部、平成十六（二〇〇四）年のアテネオリンピックにも出場した水泳の山田沙知子選手、女子サッカーの下小鶴綾選手、シンガーソングライターとして活躍しているbird、矢井田瞳らを取りあげた。

注

（一）「大阪日報」十月十三日「関西大学百年史」資料編、一九九六年、三四頁。

（二）「関西法律学校と経済学」「関西大学経済論集」創立



村山実・阪神タイガース監督

百周年記念特輯、一九八六年、六二六頁。

(3) 同前、六二七―六二八頁。

(4) (明治二十年)十一月から翌年一月にかけて、分配

と交換に関する講義を筆記している。「関西法律学校講義目録」「関西大学図書館報籍苑」第二十三・二十四合併号、一九八六年、一一頁。関西法律学校再広告に、「一今回当始審裁判所詰検事法学士野村珍〔鈔〕吉君ヲ増聘シ英吉利法律ノ一科ヲ設ク」と記されている(「大阪日報」十一月二日)。

(5) 『関西法律学校筆授生講義録』第六号(発行者吉田一士、明治二十一年十一月十日)、第一回汎論のみ収録。

(6) 『官署諸報告書』明治三十七年十月一日条(『関西大  
学百年史』資料編、一九九六年、一三三―一三八頁)。

(7) 書簡は、勤務先の尼崎汽船の事務用箋を用いて書かれて  
いる。当時、授業は夜間に行われていた。

「肅啓

永く先生の御熱誠なる御薫陶を相受け申候事、幾  
重尔も御禮申上候、唯不敏なる鯨生其中ばをも領  
得する能はざりし事、深く謝罪仕候、扱て御多用

中誠尔恐縮至極に奉存候へども、左の事項尔付き  
疑を抱き居り申候次第、若し御寸暇も御座候ハ、  
御高教を仰ぎたく候

一、価値なる語は諸種の学問に使用せられ居るも  
のなるも、経済学上に於て所謂価値とは貨幣尔て  
秤量したる場合の価値尔して、世間尔て用ゐら  
る、価値の或一種尔属するものなりとは、価値の  
意義尔対する先生の御意見の様、曾て承り居り申  
候処、其後貨幣の交換価値即ち一般物価決定の法  
則の章尔於て、貨幣の交換価値とは貨幣以外の財  
尔て秤量したる貨幣の価値の事尔て、換言せば、  
一定量の貨幣が他の一般の財を購買し得る力、即  
ち貨幣の購買力の事なりと御講義なし下され候様  
尔存し居り候

右尔つき種々考覈仕候処、経済学上尔於て使用せ  
らる、価値なる言葉にも矢張り二様の意味ある様  
に被存申候、即ち一般の貨物(貨幣外の)尔対し  
て謂ふ場合と貨幣尔対して用ゆる場合と其意義を  
異尔するものかと存候、果して然るや否や、若し  
然らすとせば、両語の意義は如何尔解して宜敷候

哉、希はくは一日も早く此疑問を氷解せしめ下さ  
れたく候、閑禮のだん御海容被成下度候

六月九日

関西大学法科学生 吉長正好拜

河上先生足下」

(8) 杉原四郎『日本の経済学史』(関西大学出版部、一  
九九二年)、一三〇―二四四頁。「朝日新聞」大阪版  
一九八六年五月二十四日朝刊(二十三面)。

〔付記〕今回の展示にあたって、資料の提供などでお世話に  
なつた上田高嶺氏、國井邦子氏、小西逸平氏、佐藤信夫・久  
美子御夫妻、末政芳信氏、苗村七郎氏、藤本道人氏、村山孝  
子氏には、深謝の意を表します。なお、構想から作品の展示  
に至るまで、熊博毅・出版課長の助言をうけ、同僚山下靖子  
氏・定時職員長野富恵氏との共同作業によって、開催するこ  
とができたことを明記する。

(出版部出版課年史編纂室 藤原有和)

## 展示目録

【第1ケース(関西法律学校の創立と経済学科・商業学  
科の設立)】

- 1 関西法律学校創立者の群像(写真)
  - 2 福島学舎(写真) 明治三十九(一九〇六)年竣工。
  - 3 『経済叢話』(複写) 毎月二回発行。第十一号(明治二  
十一年四月十一日)〜第十八号(同年十月十五日)。
  - 4 『関西大学学制一覽』 明治三十八(一九〇五)年
  - 5 「福島区いま・むかし 明治四十四年ごろの福島あ  
たり」(地図)
  - 6 『福島学舎土地建物権利登記済書』 明治三十九(一  
九〇六)年十二月
- 【第2ケース(経済学科・商業学科の授業)】
- 7 『関西大学商業科第一回卒業アルバム』 写真は「商  
業政策」の授業風景。
  - 8 河上肇の授業風景(写真) 明治四十三年度「英文  
経済学」を講義中の河上講師。

- 9 河上肇宛吉長正好書簡 大正二(一九一三)年六月九日
- 10 吉長正好宛河上肇書簡(返信) 大正二(一九一三)年七月二十八日
- 11 垂水善太郎宛河上肇書簡 大正四(一九一五)年七月二十九日
- 12 「財政学講義ノート」明治三十七(一九〇四)年頃、田島錦治博士述、依藤詮之助筆記。依藤曳隆氏寄贈
- 13 「経済学講義ノート」宮島綱男講述「経済原論」ほか十一科目講義ノートの製本(八田薫筆記)。
- 14 【第3ケース(第二次世界大戦と関西大学)】  
神戸正雄学長の訓話(写真) 昭和十六(一九四一)年十二月八日開戦の日午後三時、千里山学舎のグラウンドで学生たちに訓示をする神戸学長。
- 15 戦地に赴く兵士への恩師の寄せ書き(日章旗に神戸正雄学長ら二十八名が署名)、神戸学長から戦地の校友への絵葉書他。苗村七郎氏提供
- 16 戦時下、勤労奉仕をする学生に大学が貸与した水筒
- 17 「学徒出陣別れの遺墨集」昭和十八(一九四三)年十二月一日出陣に際して書かれたもの。八島治一教授寄贈
- 18 戦地の校友から本学教職員への絵葉書
- 19 正井敬次教授を囲むゼミナル学生(写真) 苗村七郎氏提供
- 20 経済原論演習宿題論文控 苗村七郎氏提供
- 21 受験許可証 昭和十八年九月八日に実施された卒業試験の受験許可証 苗村七郎氏提供
- 22 関西大学学科担任表(「学報」第百九十八号) 昭和十七年度経商学部経済学科・商業学科の学科担任表。
- 23 矢口孝次郎教授の辞職願 昭和十九(一九四四)年
- 24 【第4ケース(経済学部・商学部の発展を支えた人たち)】  
正井敬次著『貨幣価値の研究』(日本評論社、一九三五年) 苗村七郎氏提供
- 25 磯部喜一述『工業政策論』草稿(甲文堂書店、昭和十七年度講義案) 苗村七郎氏提供
- 26 今西庄次郎著『証券価値論』(有斐閣、一九五九年)

- 27 板橋菊松著『社債法と社債信託論』（板橋博士学業記念刊行会、一九六五年）
- 28 矢口孝次郎著『資本主義成り期の研究』（有斐閣、一九五二年）
- 29 森川太郎著『銀行職能論』（大同書院、一九四一年）
- 30 森川太郎著『ケインズ経済学の基線』（産業経済社、一九五一年）
- 31 植野郁太著『基礎財務諸表論』改訂版（中央経済社、一九八五年）
- 32 神屋敷民蔵宛矢口孝次郎書簡 昭和二十八（一九五三）年九月二十三日 留学先のロンドンより近況を知らせている。
- 33 ケンブリッジ大学留学中の矢口孝次郎・堀正人両教授（写真） 昭和二十八（一九五三）年十一月 両教授は、戦後最初の在外研究員である。
- 34 原田聖二宛矢口孝次郎書簡 昭和四十九（一九七四）年六月十四日（原田聖二氏寄贈） イングランドのカンタベリーに留学していた原田教授に近況を伝えている。
- 35 「森川さんの思い出」（矢口孝次郎教授執筆）
- 36 【第5ケース（新制大学の発足と学生生活）】  
新制大学とともに男女共学になった。（写真）
- 37 経済・商両学部出身八公認会計士―最初の合格者たち（写真） 昭和二十七年秋ごろ。上田高嶺氏提供
- 38 関西大学経済研究部（写真）
- 39 『関西大学学報』第七十二号 昭和四（一九二九）年九月十五日発行
- 40 『経研論集』第二号 一九六二年九月発行
- 41 経商合同学内ゼミナール大会第二回大会報告書 昭和三十九（一九六四）年十一月二十五日開催
- 42 第二十六回日本学生経済ゼミナール関西大学大会プログラム 昭和五十四（一九七九）年十二月二十日～二十二日開催
- 43 最近五カ年における経済・商学部在籍留学生数（グラフ） 国際交流センター資料提供
- 44 留学生点描（写真）
- 45 第三回大学祭プログラム 昭和三（一九二八）年十

- 月二十七日開催
- 46 第三回大学祭における商学会デパート展覧会チラシ  
昭和三(一九二八)年十月二十七日開催
- 47 経済学部祭プログラム 昭和五十(一九七五)年十一月十七日～二十日開催
- 48 商学部祭プログラム 昭和五十(一九七五)年十一月十七日～二十日開催
- 49 大学祭いま・むかし(写真)
- 【第6ケース(経済学部・商学部を彩る人々)】
- 50 竹田繁七の土俵入(写真)
- 51 竹田繁七 優勝銀杯
- 52 鳥海青児 木版画「日覆をおろす男」 22×17cm(昭和三十三年制作)
- 53 『鳥海青児図録』一九九四年
- 54 アメリカン・フットボール大学日本一優勝記念バックル 羽間平安氏寄贈
- 55 羽間平安日本アメリカン・フットボール殿堂入り表彰状
- 56 村山実 阪神タイガース監督退任のとき(写真) 村山孝子氏提供
- 57 村山実 プロ野球殿堂入りレリーフ 村山孝子氏提供
- 58 村山実と桂三枝(写真)
- 59 桂三枝「すべての夢は関西大学から始まった」(色紙)
- 60 佐藤信夫 第八回冬季オリンピック(アメリカ・スコバーレー大会一九六〇)および第九回冬季オリンピック(オーストリア・インスブルック一九六四)参加証。佐藤信夫氏提供
- 61 佐藤信夫 第三回ユニバーシアード大会(チェコ・スピンドリルフムリン一九六四)第二位表彰状。佐藤信夫氏提供
- 62 佐藤信夫 全日本フィギュアスケート選手権大会連続十回優勝金メダル。佐藤信夫氏提供
- 63 大川久美子 全日本フィギュアスケート選手権大会一位～三位受賞メダル(一九五九～一九六八)。佐藤久美子氏提供

以上